

透析期の腎性貧血治療にあたって

慢性腎臓病患者における 腎性貧血治療のガイドライン

腎性貧血治療の開始基準と目標Hb値

血液透析、腹膜透析患者のいずれにおいても、実際の診療においては個々の症例の病態に応じ、下記数値を参考として目標Hb値を定め治療することが推奨されています。

	成人の 血液透析患者	成人の 腹膜透析患者
治療開始の 基準	複数回の検査で Hb値<10g/dL	複数回の検査で Hb値<11g/dL
維持すべき 目標Hb値	週はじめの採血で $10\text{g/dL} \leq \text{Hb値} < 12\text{g/dL}$	$11\text{g/dL} \leq \text{Hb値} < 13\text{g/dL}$
減量・休業 の基準	Hb値>12g/dL	Hb値>13g/dL

しかしながら、適切なHb値は個別の患者背景に大きく左右されていると考えられ、EPO低反応性、脳卒中の既往、糖尿病の有無、CVDの有無、輸血の必要性、貧血の身体能力やQOLへの影響などに応じて個別に判断する必要があります。

また、目標Hb値のみではなく、Hb値の急速な上昇やESA投与量も死亡率に関係する可能性が指摘されていることも重要です。

日本透析医学会：2015年版 日本透析医学会
慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン
[透析会誌 2016;49(2) :89 - 158]